



聖徳太子影像（東本願寺蔵）

2020年度 小松教区 第二回 寺族研修会 和国の教主

～親鸞聖人にとっての聖徳太子～

[日時] 2021年6月12日（土）16：00～18：00
（受付15：30）

[会場] 小松教務所 常磐会館（小松市小馬出町26）

[講師] 鶴見 晃 氏（同朋大学教授）

[参加費] 500円 ※当日受付にて納入ください

[対象] 住職・教会主管者・僧侶・坊守・一般

[定員] 30名 ※定員になり次第締め切らせていただきます。

[申し込み] 6/4までに教務所まで氏名・連絡先をご連絡ください。

[携行品] 『真宗聖典』、念珠、間衣、輪袈裟、筆記具、マスク

※趣旨文が裏面にありますので、ご確認ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止する場合があります。

日程

15時30分	受付開始
16時00分	開会式
16時15分	講義
17時45分	質疑応答
18時00分	閉会式

お問合せ先

真宗大谷派 小松教務所（担当：山本）

〒923-0904 小松市小馬出町26

TEL：0761-22-0555／FAX：0761-22-0529

MAIL：komatsu@higashihonganj.or.jp

主催：小松教区教化委員会 寺族教化部門



趣旨文

2021年は親鸞聖人ご自身が、「和国の教主」と仰がれた、聖徳太子千四百回御忌の年にあたり、4月には、本山でも聖徳太子千四百年御忌法要が厳修されました。

親鸞聖人が「皇太子聖徳奉讃」を作って、聖徳太子を讃えておられることは、誰もが知るところであります。中でも有名なご和讃は「和国の教主聖徳皇/廣大恩徳謝しがたし/一心に帰命したてまつり/奉讃不退ならしめよ」でしょう。

「では、この太子の恩徳の内容は？」と問うと、「和国の教主でしょう」とは言っても今一つ明確ではないように感じられます。

聖人の主著『教行信証』の中に聖徳太子のことが出てくるのは『後序』の「また夢の告に依って、綽空の字を改めて、同じき日、御筆をもって名の字を書かしめたまい畢りぬ」だけあります。そもそも『三夢記』で伝えられる夢告（磯長の夢告、大乘院の夢告、六角堂の夢告）が親鸞聖人にとって仏道歩みの転機となったことは良く知られていますが、この聖徳太子の「夢告の文」の意味が取りにくいらいがあります。

また、聖徳太子の恩徳は「夢の告げ」だけだろうかという疑問も当然起こってきますので、更に和讃を読んでみますと、「聖徳皇のおあわれみに/護持養育たえずして/如来二種の回向に/すすめいれしめおわします」というご和讃があります。この如来二種の回向が『教行信証』に出ている往相の回向と還相の回向であることは読み取れるのですが、そこから先へはなかなか進めません。

一方、『日本史の教科書』を見ると、「十七条憲法の制定」や「物部守屋と戦って仏法を守った」といった聖徳太子の功績が色々書かれていますが、「こういう聖徳太子の歴史的功績は親鸞聖人の教えにどのように受け継がれているのだろうか」という疑問も出て来るのであります。

こうした疑問に光を当てるべく、今回の寺族研修テーマ「和国の教主—親鸞聖人にとっての聖徳太子—」を企画しました。どうぞ皆々様のふるってのご参加をよろしくお願い申し上げます。

(寺族教化部門実行委員：翫千亜紀)

講座に参加される方は、下記項目をご確認のうえ、

新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めてご参加ください

参加者に留意いただきたい事項

- 体調が優れない場合は、参加を控えてください
- ハンカチは必ず持参してください
- マスクは必ず着用してきてください
- 勤行の時も、マスクは外さずにお勤めしてください
- 入場時、退場時には必ず手洗いや手指の消毒を行ってください